

「サン・ラポールMAIL(メール)」は、シニアの皆様により豊かでいきいきとした暮らしをお楽しみいただくために生まれた情報誌です。その中で掲載しているサン・ラポール各館の暮らしぶりや行事等の一部を紹介します。

サンラポールに暮らす

■ 西村 恒一さん (81歳) サン・ラポール目白 平成8年5月入居
日本歯科大学名誉教授 医学博士 (東京医科歯科大学第981号)

こちらに来る前は、日本歯科大学の東京歯学部と新潟生命歯学部とで45年間、教鞭をとっており、専攻分野は口腔外科学でした。

大学を定年退職する一年前、脳梗塞にかかり、家内にも先立たれていたことから、東京に住む弟妹たちの勧めでホームへの入居を考え、見学して大変印象の良かったここに決めたのです。

男性より女性の入居者のほうが多いので、入った当初は恐々としていましたが、皆さん、やさしく親切なので驚きました。私が男性だからというわけではなく、女性どうしでもお互いを思いやり、実に仲良くしておられる。食事の時も、どなたとも冗談を言い合えるような明るい雰囲気なので、楽しいですよ。



一人での外出や運動などは身体的に難しいので、ふだんは部屋で本や新聞に目を通すくらいですが、毎週、3人の弟妹のうちの誰かが顔を見せてくれるので、退屈はしません。

学生と過ごす時間が長かったせいか、年に2回、教え子が全国から集まって、「囲む会」を開いてくれるのもうれしいですね。歯科大の少林寺拳法部の顧問(現在は名誉顧問)もしていたので、東京で会がある時は顔を出しています。

弟妹や教え子たちのためにも、まだまだ元気でいたいですね。

日本歯科大学の名誉教授として、平成15年には瑞宝中綬章も受賞なさった西村さん。写真は、例年都心のホテルで開催されている「西村先生を囲む会」で、教え子の皆さんと。



My Sun Rapport

南房総が参加・グランドホーム合同音楽発表会 艶やかな歌声をホールに響かせて



■この日のために練習を重ね、明るく息の合ったハーモニーを披露しておられました

「音楽を通じて交流の輪を広げましょう」と、サン・ラポールの呼びかけで始まったグランドホーム(有料老人ホーム)合同音楽発表会。第二回の今年は、東京都と千葉県より6ホームの音楽サークルが参加して、10月2日、四谷区民ホールを会場に開催されました。

サン・ラポールからは、昨年に続いて『サン・ラポール南房総』のコーラスサークル「エーデルワイス」が出演しました。白と黒の上下に赤い花を飾った揃いの衣装で登場した皆さんは、二度目の舞台とあって、少々緊張しながらも、にこやかな笑顔。手話を交えた

明るい歌「一人の手」に始まり、ゆったりとした英語の歌「We Shall Overcome」、やさしく暖かい「花のまわりで」「はるかな友に」など、4曲を歌い上げました。

大きな舞台にも関わらず、お一人おひとりが楽しそうにリズムを取りながら、のびやかに歌っておられる姿が印象的でした。

ほかのホームでは、コーラスのほか、リコーダーやミュージックベルの演奏も披露されました。それぞれに日頃の練習の成果を発揮された素晴らしい歌や演奏に、客席の皆さんからも自然に手拍子が湧き、ともにメロディを口ずさむなど、ステージと一体となって楽しんでいただけたようです。

好きなこと、得意なことを、ほかの方々の前で披露することは、ちょっと勇気がいりますが、観賞し合うことでお互いにより刺激になります。また、感動や元気を分かち合い、新しい交流が生まれる喜びも。サン・ラポールでは、これからもこのような発表の場を大切にしていきたいと思います。

サンラポールだより

サン・ラポール南房総

善光寺参り、湯けむりの温泉宿 秋の信州を味わったバスの旅

観光バスを借切り、総勢22名で信州湯田中温泉へ泊二日の旅に出かけました。一日目は長野善光寺へ。お土産店が軒を連ねる参道では案内係の話に皆さん熱心に耳を傾けて、名刹の雰囲気を味わっておられました。

岩風呂や檜風呂のあるホテル旅館で旅の疲れを癒し、翌日は草津白根山など、色づき始めた自然の景色を車窓から満喫。途中、浅間酒造観光センターや卯三郎こけし・創作こけし工芸館も見学し、爽やかな信州の思い出を胸に帰路につきました。

サン・ラポール南房総「相続セミナー」

銀行勤務30年(内15年は相続担当)というベテランの講師を招き、遺言書の必要性を中心にした相続講座を開催。壱・弐番館それぞれの会場が満席になるほどのご参加があり、遺言書の書き方などのアドバイスに、うなずきながらメモを取っておられました。

サン・ラポール目白

美しい花を心のままにアレンジ。初のフラワーアレンジメント教室

フラワーアレンジメントの講師をなさっている方から声をかけていただき、初めてのフラワーアレンジメント講座を開きました。講師が用意した美しい生花と容器を前に、参加された皆さんの表情も和らぎます。この日は、デンファレ、孔雀草、バラ、マーガレットなどを中心にアレンジ。お一人おひとりに指導していただき、色合いや長さを確かめながら、どなたも真剣に手先を動かしていました。同じ花でも、扱う方の気分やセンスで多彩な表情が生まれ、皆さんアレンジの面白さを実感されたご様子。

出来上がったアレンジメントは、それぞれにご自分の居室へ持ち帰られ、終了後も華やかな花を見る楽しみが増えました。

次回の日程も決まり、当館では今後も定期的にフラワーアレンジメント教室を開催していく予定です。ご興味のある方は、ぜひ参加なさってみませんか。

サン・ラポール調布

中国伝統楽器の二胡のコンサートと旬の香りを楽しんだ、秋の味覚祭

季節の移り変わりを五感で楽しんでいただこうと、毎年開催している秋の味覚祭。今回は、第一部に二胡演奏家の於米霞(ヨ・ミシャ)さんをお招きし、30名以上のご入居者が中国伝統楽器の美しい音色を堪能しました。「瀬戸の花嫁」など馴染みの曲から、抒情あふれる「夜来香」まで、6曲を演奏していただき、アンコールは「桜」。合間には、笑いを交えながらのトークや二胡についての紹介もあり、「何の皮でできているの?」などと、皆さん興味津々。音楽を通じて中国文化に触れるよい機会になりました。

第二部は、お待ちかねの食事会。旬の食材をふんだんに使ったメニューの数々に「野菜がいっぱい食べられた」「コンサートも食事も楽しかった」などの感想をいただきました。

<メニュー>

手作り松花堂弁当・秋野菜五目御飯・プッフェ・毎年好評の秋茄子のけんちん汁・30品目のサラダ白菜と挽肉の蒸し物・フルーツの盛り合わせ白ワイン、赤ワイン、ソフトドリンク



■お土産選びも旅道の醍醐味が残るが



■花を見ているとやさしい気持ちに。5名のご入居者と職員1名が参加しました



■コンサートの合間には、珍しい二胡に質問の声も

